

## マスタード栽培試験（3年目）

### 1. 目的

新規作物として導入を検討する際の参考とする。

### 2. 実施場所

帯広市川西町 帯広市農業技術センターほ場

### 3. 栽培方法

(1) 供試品種 ブラウンマスタード（品種名不明）（企業提供種子による）

オリエンタルマスタード（品種名不明）（同上）

(2) 供試面積 100 m<sup>2</sup>

(3) 耕種概要

土壌区分	土性	前作	栽植密度	栽培方法	播種月日	収穫日
沖積土	壤土	スイートコン	66 cm×5 cm 30本/m <sup>2</sup> 目標	条播（ごんべいベルト） 103、102.5	5/10	8/5 8/17

中耕 手取り除草	施肥量(kg/10a)				
	とうもろこし2号	窒素	燐酸	加里	苦土
5/31	50 kg	4.0	11.0	5.8	2.8

### 4. 試験内容

(1) 菌核病等の薬剤防除が収量や品質に与える効果の確認

使用薬剤と処理時期（非結球アブラナ科葉菜類に登録を有する薬剤から選択した）

薬剤名	使用倍率	散布月日
セシナーデ水和剤 <sup>※1</sup>	1,000倍	1回目：6/25、2回目：7/6、 3回目：7/14
マスタード溶液 <sup>※2</sup>	5倍	
無防除		

※1 からしな（種子）に登録を有する薬剤

※2 マスタード成分抽出資材

※処理開始時の生育

1回目：ブラウンマスタードの開花始から約7日後、花卉の落下が始まった時期。

2回目：オリエンタルマスタードの開花盛期、両品種に頂葉のしおれ（原因について、十勝農試に問い合わせ中だが、病原性のある菌類は未確認）が目立ってきた時期。

3回目：ほぼ開花が終り、下葉の黄化・枯死が目立ってきた時期。

## 5. 生育および収量調査結果

### (1) 生育及び作業ステージ

種類	播種月日	抽苔開始	出芽期	開花始	成熟期	収穫期
ブラウン マスタード	5/10	6/11	5/15	6/18	8/2	8/5
オリエンタル マスタード	5/10	6/13	5/16	6/20	8/7	8/17

※成熟期は主茎の 1/3 程度の位置に着生する莢内種子が 70%程度本来の色に達した時期とした。

### (2) 生育調査

草丈(cm)

種類	調査日					
	6/9	6/17	6/25	6/30	7/8	7/28
ブラウン マスタード	14.3	59.0	113.7	137.0	150.9	150.9
オリエンタル マスタード	11.5	34.8	95.3	121.0	149.2	155.8

m<sup>2</sup>当り莖数(本/m<sup>2</sup>)

種類	調査日		
	6/9	6/25	7/28
ブラウンマスタード	40.9	44.7	43.2
オリエンタルマスタード	31.8	34.1	33.3

### (3) 収量調査 (9/28) ※参考値扱い

種類	処理	風選後収量 (kg/10a)	左比 (%)	クズ重 (kg/10a)	風選割合 (%)
ブラウン マスタード	セレナーデ	61.9	54	0.9	99
	マスタード溶液	109.6	95	1.2	99
	無処理	115.1	100	1.2	99
オリエンタル マスタード	セレナーデ	42.9	78	7.3	85
	マスタード溶液	52.0	94	6.8	88
	無処理	55.2	100	9.2	86

※8/31・9/12の強風により、におの倒伏と崩壊があった。

- ① オリエンタルマスタード用の播種ベルトを、103 から 102.5 に変更することで、栽植本数は目標とした 30 本/㎡とすることが出来た。
- ② 昨年と比較し、成熟期はブラウンが早まり、オリエンタルは遅れた。
- ③ 7月上旬に頂葉のしおれが両品種に目立ち始めたが、株が立ち枯れることも無く、最終的には痕跡も不明瞭となった。原因は特定されていない。
- ④ 菌核病の典型的症状は確認されず、各剤の地上部生育に与える影響は不明だった。
- ⑤ にお積み後に 2 回の強風・突風で、におの倒伏崩壊が発生し、著しい脱粒や個体の回収ロスが生じたため、収量調査は参考数値扱いとなる。



頂葉部位のしおれ

## 6. 考察

- ① オリエンタルとブラウンの収量差が大きく、目標となる栽植本数は、畦幅の設定から検討が必要と思われる。
- ② 病害虫の発生や影響が不明なため、薬剤の散布については経済性を含めて再検討。